

# 高知憲法速報

№171 2008. 9. 5

発行：高知憲法会議事務局

088-872-3406

編集人 事務局 徳弘嘉孝

## 憲法署名・高教組の取り組み

8月31日高教組は、帯屋町で街頭宣伝署名活動に取り組みました。9人の参加で1時間で107筆の署名を集めました。中学生や高校生がまとまって署名してくれたことが特徴でした。高教組は6月に毎月1回は街頭宣伝署名に取り組むことを決めて、6月、7月、8月に行動しています。9月2日現在646筆になりました。

## 中央憲法会議・拡大常任幹事会 8月30日

中央憲法会議の全国会議が開かれ、高知憲法会議から徳弘事務局長が出席しました。臨時国会を控えて福田内閣と国民の矛盾がますます大きくなっていく中、海外派兵恒久法制定と明文改憲に向けた動きをどうくい止め、どのようにたたかうかの意思統一を行いました。12都府県、22団体から37人が参加しました。長谷川事務局長は基調報告で、「戦争する国づくり」に反対する世論と運動の発展は、恒久法の提出を困難にさせ、憲法審査会の始動も許していない。給油新法継続に反対する声も過半数であり、靖国の参拝者も減少した。諸団体の様々な運動と世論が与党を追いつめている、と述べました。憲法改悪反対の多数派を結集していくための運動について、九条の会との関連や憲法会議の組織と活動の前進についても提起しました。当面の重点的な課題として、憲法学習、給油新法延長反対、恒久法反対の取り組み、平和的生存権を力にした国民的運動を発展させることを提案しました。国会情勢報告、原子力空母寄港を控える神奈川からの報告の他、各団体、各県からの報告発言が続き、活発に議論しました。

情勢分析の通り、9月1日福田首相が突然政権を投げ出し、自公政治の破綻を裏付けました。

## 秋の憲法講座・東京 8月31日

8月31日には、中央憲法会議と首都圏の憲法会議が共催した2008年秋の憲法講座が開かれました。

日本共産党の笠井亮・衆議院議員が臨時国会をめぐる情勢について特別報告。吉岡吉典・元参議院議員が「日米同盟の新段階と日本国憲法」と題して講義。渡辺治・一橋大学教授が「今日の情勢の特徴と改憲策動」と題する講義を行いました。会場の明治大学には500人以上が参加しました。

## 署名集約状況 9/5現在

会員団体名	署名目標	到達
県労連	20,000	4,315
県教組		1,401
高教組	10,000	646
私学教組		30
自治労連		3,874
県国公		2,200
福祉保育労	3,000	70
平和委員会	5,000	702
民青同盟		
新婦人	20,000	16,849
商工団体連合会	15,000	16,718
自由法曹団		
地域人権連		
高退協		100
治維同盟		
梅原憲作		
共産党県委員会	40,000	2,454
医労連		77
民医連		12,652
学習協		
山下道子法律事務所		
退教協		750
退婦教		3,340
農民組合		
その他		732
街頭署名		4,902
小計		71,812
母連		11,449
うち重複集約(報告)分		9,269
有権者過半数目標/到達合計	331,000	73,992
こうち九条の会街頭署名		6,979

渡辺教授は、90年代までの日本社会が脆弱な社会保障制度でありながら、企業社会で労働者を抱え込んで競争させ、公共事業投資で地方を抱え込むなどの力で一定の安定を得ていたこと。小泉構造改革は企業リストラ、不良債権処理、三位一体改革、社会保障改悪などでこれら全ての柱を切り捨て、ヨーロッパなどでは見られない格差貧困問題を劇的な形で噴出させたことを具体的に明らかにしました。安倍政権の改憲強硬路線破綻の分析、改憲勢力のねらい、構造改革手直しの動向などについても詳しく説明し、反構造改革と反改憲の運動が合流する重要性を述べました。

